

環境経営レポート

2020 年版

(対象期間: 2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日)

株式会社井関重信製作所

2021/03/31

目次

環境経営方針	3
基本理念	3
基本方針	3
会社概要	4
会社名及び代表者名	4
所在地	4
環境管理責任者	4
事業内容	4
事業規模	4
会社設立年月日	4
資本金	4
組織図および認証・登録範囲	4
組織の役割・責任・権限	6
代表取締役社長	6
環境委員会（委員長：社長）	6
環境管理責任者（生産技術部部长）	6
環境委員	7
EA21 事務局	7
各部の部長	7
各課の課長	8
一般従業員	8
環境経営目標とその実績	8
2020 年の実績	9
2021 年以降の目標	9
環境経営計画の内容と評価	10
二酸化炭素排出量の削減	10
産業廃棄物最終処分量の削減	11
水使用量の削減	11
化学物質使用量の削減	12
総物質投入量の削減	12
グリーン購入の推進	12
環境活動の取り組み結果の評価まとめ	13
二酸化炭素排出量の削減について	13
産業廃棄物最終処分量の削減について	13
水使用量の削減について	13

化学物質使用量の削減について.....	13
総物質投入量の削減について	13
グリーン購入の推進について	14
環境関連法規制等の順守状況の確認及び評価結果.....	14
環境関連法規制等の違反、訴訟の有無.....	14
2021年度の取り組み内容	15
全体の評価と見直し.....	15

環境経営方針

基本理念

当社は重信川に面し、周囲を皿ヶ嶺連峰などの山々に囲まれた自然豊かな地に在り、農業機械などの製造工程において、地域の自然環境及び地球環境に配慮し、環境問題に全員参加で、自主的・積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指し、以下の項目を継続的に改善して行くことを誓約します。

基本方針

1. 事業活動に関わる環境関連の法規、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境汚染を未然に防止します。
2. 環境経営目標・環境経営計画を立案し、環境負荷低減に取り組みます。またシステムの定期的見直しを実施します。
3. 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。
 - (ア) CO₂排出量を削減する。
 - ① 省エネの推進（節電、エコドライブ、他）
 - ② 省資源の推進（ガソリン、灯油、軽油、他）
 - (イ) 廃棄物の削減と資源リサイクルを推進する。
 - (ウ) 節水を推進し、水使用量を削減する。
 - (エ) 化学物質使用量の削減を進める。
 - (オ) 当社が生産する製品及びその生産工程の中で環境に配慮した取り組みを進める。
 - (カ) グリーン購入を推進する。
4. この環境経営方針を全従業員に周知し、環境教育を通じて環境問題への意識向上を図ります。
5. 環境への取り組みを「環境経営レポート」としてまとめ公開します。

制定日：2014年6月24日

改定日：2019年7月10日

株式会社 井関重信製作所
代表取締役社長 遠藤博

会社概要

会社名及び代表者名

株式会社井関重信製作所
代表取締役社長 遠藤博

所在地

愛媛県東温市田窪 660-3

環境管理責任者

生産技術部長 廣田誠二

事業内容

農業機械の製造

事業規模

売上高: 29.49 億円 (2020 年実績)
従業員数: 183 人(2021 年 3 月末現在)
床面積: 13,400m²

会社設立年月日

2012 年 12 月 4 日

資本金

8,000 万円

組織図および認証・登録範囲

認証・登録範囲は当社の全組織・全活動とします。当社の全組織を図 1 に示します。

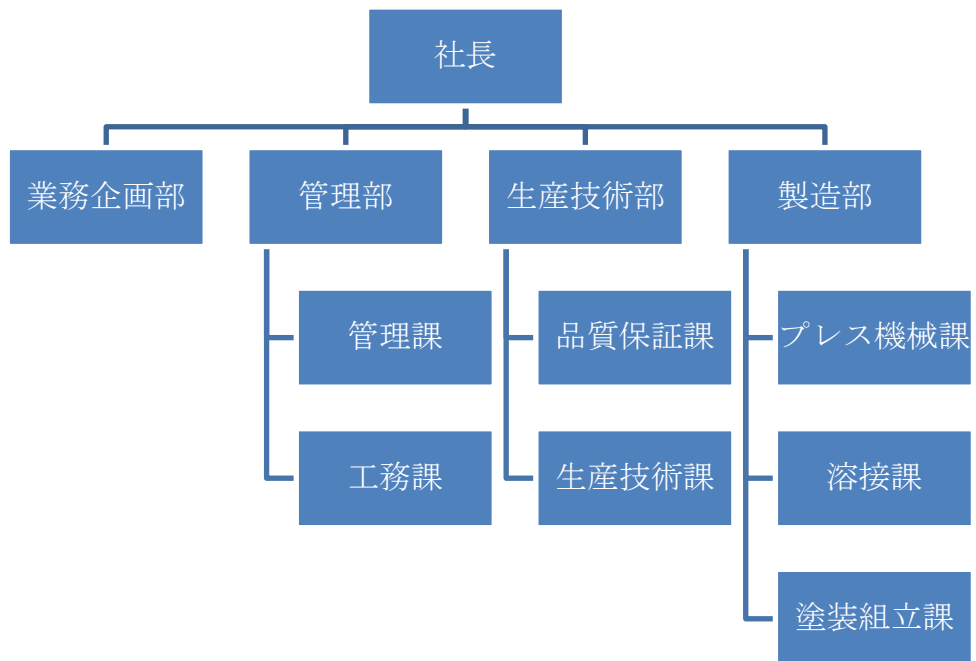


図 1 当社の組織図

組織の役割・責任・権限

社内の各組織の役割・責任・権限は次の通りです。

代表取締役社長

- 当社の最高責任者
- 環境委員会の委員長
- 環境経営システム構築のため、必要な人員、設備、費用の準備
- 環境管理責任者を任命し、環境経営システムの運用に必要な責任と権限の委譲
- 当社の環境経営方針の制定・見直し
- 環境経営目標（中期目標・単年度目標）及び環境経営計画の承認と運用実施の評価
- 環境経営レポートの承認
- 環境経営システムの見直し指示を毎年、年度初めに実施し必要な指示を行なう
- 環境経営システムに関する全ての責任
- 緊急事態発生時の社内全体の総指揮を執る
- 環境マニュアルの決済
- 法定管理者、主任者の承認

環境委員会（委員長：社長）

- 環境経営方針・環境経営目標・環境経営計画の周知
- 環境経営目標・環境経営計画の進捗・達成状況の確認
- 環境経営システムの改善についての審議（1月、4月、7月、10月開催）
- 関係法規制対応について審議
- その他

環境管理責任者（生産技術部部長）

- 環境経営システムの統括
- EA21 ガイドラインに基づく、環境経営システムの確立、実行、維持
- 環境経営システムの実施状況を代表取締役社長に報告
- 不適合事項の是正処置及び予防処置結果を代表取締役社長に報告
- 経営者へ見直しに必要な情報の提供

- 不適合処理、外部からの苦情、要望等への対応、内部コミュニケーション、及び法規制等のフォローと取組管理担当者へのフォロー
- 環境委員会の委員長不在時の代行

環境委員

- 環境委員会へ出席し、議決事項を部門の従業員に教育する
- 自部門の環境実行計画管理表を作成、実施項目の進捗を管理し、実績を記載する

EA21 事務局

- 環境管理責任者の補佐
- 環境関連法規取りまとめ表作成と、法令等の最新情報の収集と遵守状況まとめ
- 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックのまとめ
- 環境負荷の特定及び環境への取り組みの決定
- 環境経営目標（中期目標・単年度目標）及び環境経営計画の立案とその進捗管理
- 単年度環境実行計画管理表作成結果と評価結果を環境委員会へ報告
- 環境安全施策及び教育訓練の立案と実施
- 環境経営レポートの作成と公表（事務所に備え付けと EA21 地域事務局へ送付）
- 環境文書&環境記録の整理
- 内部環境監査の実施計画作成
- 内部環境監査の実施と報告書作成
- 内部環境監査員の要件(内部環境監査手順書参照)確認
- 環境委員会の事務局業務
- 「内部環境監査チェックリスト」の見直し
- 内部環境監査是正処置の権限

各部の部長

- 環境経営システムの運用管理組織図における各部門の掌握
- 各部門内における環境経営システムの実施運用に対する責任と権限
- 各部門の環境経営目標・環境経営計画の周知と実施運用及び評価のまとめ
- 環境経営システムに関する手順書の承認

各課の課長

- 各課における環境経営目標・環境経営計画の周知、実施運用、評価のまとめ、
- 環境経営システムに関する手順書の作成と運用
- 環境緊急訓練の計画と実施
- 所管装置及び所管施設の運転・管理
- 緊急事態の未然防止、発生時の環境影響回避・軽減の処置
- 環境活動に対する要望や意見、改善点を提出する
- 不適合結果の確認と是正及び予防処置
- 運転員の職場内教育の責任と権限

一般従業員

- 環境経営計画の重要性を自覚し、必要環境教育を受け、環境経営方針・環境経営目標環境経営計画に基づいて、日常の環境活動に取り組む

環境経営目標とその実績

当社は2013年度一年間の実績を基準とし、2014年度から2020年度までの7年間で、毎年売上高当り(原単位)の二酸化炭素排出量を1.57%ずつ、廃棄物排出量、水使用量及び化学物質使用量を2%ずつ、総物質投入量を1.5%ずつ削減して行くことを目標として活動しています。

また、2021年度からは、井関農機(株) 環境管理室の指示により、2019年度1年間の実績を基準とし、毎年、二酸化炭素排出量を1.9%ずつ、廃棄物排出量を0.4%ずつ、水使用量を1.2%ずつ、化学物質使用量を0.1%ずつ、総物質投入量を0.3%ずつ削減することを新たな目標とします。

グリーン購入については、事務用品のグリーン購入金額比85%以上を目標とします。

なお、購買電力のCO₂排出係数については、今年度(2020年)までは四国電力の2012年の実排出係数0.7kg-CO₂/kWhを用いていましたが、2021年以降は井関グループ内の方針と統一するために、電気事業者が毎年公表する最新の値を用いることとします。

2020 年の実績

項目	単位	2013 年 (基準値)	2020 年 (目標)	2020 年 (実績)
CO ₂ 排出量	削減率(%)	-	11	13.67
	目標値(t/億円)	109.57	97.52	84.19
水使用量	削減率(%)	-	14	73.37
	目標値(t/億円)	1,614.57	1,388.53	369.75
廃棄物最終処分量	削減率(%)	-	14	73.76
	目標値(t/億円)	5.44	4.68	1.22
化学物質使用量	削減率(%)	-	14	87.89
	目標値(t/億円)	0.97	0.83	0.10
総物質投入量	削減率(%)	-	10.5	15.03
	目標値(t/億円)	146.75	131.34	111.60
グリーン購入の推進	グリーン購入 金額比	-	85%以上	99.40%

2021 年以降の目標

項目	単位	2019 年 (基準値)	2021 年	2022 年	2023 年
CO ₂ 排出量	削減率(%)	-	3.8	5.7	7.6
	目標値(t/億円)	79.87	76.83	75.32	73.80
水使用量	削減率(%)	-	2.4	3.6	4.8
	目標値(t/億円)	408.47	398.67	393.77	388.86
廃棄物最終処分量	削減率(%)	-	0.8	1.2	1.6
	目標値(t/億円)	0.97	0.96	0.96	0.95
化学物質使用量	削減率(%)	-	0.2	0.3	0.4
	目標値(t/億円)	0.170	0.170	0.169	0.169
総物質投入量	削減率(%)	-	0.6	0.9	1.2
	目標値(t/億円)	119.57	118.85	118.49	118.14
グリーン購入の推進	グリーン購入 金額比	85%以上	85%以上	85%以上	85%以上

環境経営計画の内容と評価

二酸化炭素排出量の削減

目標：基準値の 11%削減

実績：基準値の 13.67%削減

内容	評価	コメント
不在時の消灯を周知徹底する	◎	よく出来ている（習慣化しつつある）
エアコンのフィルタを定期的に清掃する	◎	よく出来ている
工場内エア配管のエア漏れを削減する	◎	よく出来ている
機械設備の削減（高稼働率設備へ集約する）	◎	N C 旋盤⇒複合機へ 1 台更新した
ボイラーの省エネタイプへの更新を図る	◎	灯油仕様⇒L P G 仕様へ更新した
塗装ラインの稼働時間を短縮する	◎	技量向上で、さらなる時間短縮をする
乾燥炉バーナーを省エネタイプへ切り替える	×	費用対効果で更新時期をずらした
ボイラーのドレン回収装置を追加する	◎	ドレン回収装置を追加した
エコドライブを継続して推進する	◎	よく出来ている
アイドリングストップを継続して推進する	◎	よく出来ている
フォークリフトの電動式への切り替えを進める	◎	大型 1 台以外は全て電動式に切り替えた
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

産業廃棄物最終処分量の削減

目標：基準値の 14%削減

実績：基準値の 73.37%削減

内容	評価	コメント
両面コピーの徹底	◎	よく出来ている
使用済み封筒の再利用	◎	よく出来ている
使用済み紙のメモ等への再利用	◎	よく出来ている
電子メール/データの有効利用により紙を削減する	◎	よく出来ている
塗装ブース水の管理を徹底し、廃アルカリを削減する	◎	よく出来ている
塗装洗浄水スラジの管理を徹底し、汚泥を削減する	◎	よく出来ている
木製板パレットを再利用し、木くず排出量を削減する	◎	よく出来ている
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

水使用量の削減

目標：基準値の 14%削減

実績：基準値の 73.76%削減

内容	評価	コメント
更新した塗装ラインの水洗用水の使用量を削減する	◎	よく出来ている
トイレの自動水洗パターンを変更し、排水量を削減する	○	今後、1回の水量を改善する
緑地の散水配管に量水器を付け、工業用水と区別する	◎	よく出来ている
ボイラー水蒸気ドレンを再利用し、水使用量を削減する	◎	よく出来ている（効果が大きい）
工業用水配管のバルブを点検し、漏水を削減する	◎	よく出来ている
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

化学物質使用量の削減

目標：基準値の14%削減

実績：基準値の87.89%削減

内容	評価	コメント
塗装ハンガーを改善し塗装効率を上げる	◎	よく出来ている
生産順位を検討し色替えの洗浄用シンナーを削減する	○	今後、色替え回数を削減する
特定化学物質含有量の少ない塗料を選定する	◎	大部分を粉体塗料に変更した
塗装不良を削減し再塗装を避ける	◎	よく出来ている
脱脂用シンナーを化学物質を含まない洗剤に替える	◎	よく出来ている
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

総物質投入量の削減

目標：基準値の10.5%削減

実績：基準値の15.03%削減

内容	評価	コメント
2次元レーザー加工の材料歩留まりを改善する	◎	よく出来ている
タレパン加工の材料歩留まりを改善する	◎	よく出来ている
スクラップを資源として再利用する	◎	よく出来ている
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

グリーン購入の推進

目標：グリーン購入金額比85%以上

実績：グリーン購入金額比99.4%

内容	評価	コメント
グリーン購入対応の事務用品を選定する	◎	よく出来ている
新設設備について、グリーン購入対応品を選定する	◎	よく出来ている
総合評価	◎	

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

環境活動の取り組み結果の評価まとめ

今回の取り組み結果、「毎年売上高当り(原単位)の二酸化炭素排出量を 1.57%ずつ、廃棄物排出量、水使用量及び化学物質使用量を 2%ずつ、総物質投入量を 1.5%ずつ削減する」という目標を大幅に上回るよい結果が得られました。項目別の評価を以下にまとめました。

二酸化炭素排出量の削減について

7年間で 13.67%削減という良い結果が得られました。これは、全従業員が一丸となって取り組んだ成果であると確信しています。ただ、環境への取組を開始してから7年たち、削減率が下がってきていることも事実です。これは全社員の省エネへの取り組みが周知され無駄がなくなってきたことの証左であると考えられますが、さらなる削減を目指し購買電力のグリーン化等の新たな試みを検討します。

産業廃棄物最終処分量の削減について

7年間で 73.37%の削減という、良い結果が得られました。これは塗装ラインの一部を溶材塗装から粉体塗装に変更したことにより、排水処理スラッジの排出量が大きく減ったためと考えられます。

水使用量の削減について

7年間で 73.76%の削減という、大きな成果が得られました。これは従来の地下配管を地上配管に変更し、見えていなかった水漏れが確実に防止できたからです。

化学物質使用量の削減について

7年間で 87.89%削減という大幅な削減ができました。これは、先ほど述べたとおり、2基中1基の塗装ラインを溶剤塗装から粉体塗装(PRTR 関係の化学物質を含まない塗料を使用した塗装)へ変更したことが最も大きな要因です。ただし、1基残っている溶剤塗装ラインは2021年度も稼働するため、塗装ハンガーの改善による塗装効率の向上や、塗装不良の削減による塗料使用量の削減などそうした地道な改善を継続して行くことが削減目標を達成することに繋がります。

総物質投入量の削減について

7年間で 15.03%の削減という結果が得られました。これは、レーザー・タレパンの加工工程における材料歩留まりの改善が非常に大きな効果を生み出したものと判断します。

グリーン購入の推進について

2019年度からグリーン購入対象商品に「設備」も含めることにしましたが、その結果2020年度はグリーン購入金額比が99.4%となり、十分に目標を達成しました。今後は設備だけでなく、事務用品単体のグリーン購入率の向上を目指します。

環境関連法規制等の順守状況の確認及び評価結果

適用される法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りです。

適用される法規制	適用される施設等	評価結果
大気汚染防止法	愛媛県公害防止条例による規制	◎
大気汚染に関する県条例	塗装A・Bライン乾燥炉バーナー、蒸気ボイラー 排ガス測定	◎
水質汚濁防止法	工場排出水水質検査	◎
瀬戸内海環境保全特別措置法	排出水量が1日50立方メートル未満のため適用外	-
廃棄物処理法	廃棄物適正処理,マニフェスト保存	◎
浄化槽法	設備設置届出,維持,運用,外部機関設備点検,水質検査(1/年)	◎
毒物及び劇物取締法	劇物(苛性ソーダ)の表示と適正管理	◎
労働安全衛生法	労働災害を防止し、労働者の安全と健康を確保する	◎
有機溶剤中毒予防規則	局所排気装置点検(1/年),有機溶剤作業主任者選任	◎
粉じん障害予防規則	粉じんにさらされる労働者の健康障害の防止	◎
PRTR法	特定化学物質の使用量を毎年報告(1t以上/年)	◎
工場立地法	緑地面積の割合が適切に守られているか	◎

◎…よくできた、○…まずまずできた、×…できていない

環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去7年間にわたって関係当局より違反の指摘や訴訟もありませんでした。

2021 年度の取り組み内容

昨年に引き続き、「二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・水使用量・化学物質使用量・総物質投入量」の 5 項目を削減することを中心に活動を実施し、グリーン購入についても「設備や事務用品」のグリーン購入金額比を極力高めるべく取り組みます。

全体の評価と見直し

これまでの結果を踏まえて、各項目とも削減量が目標値を大きく上回る良好な結果が得られたのは、全従業員が環境経営方針に則って地道に活動した結果であり、方針が正しかったことの証しであるため、環境経営方針の内容は変更なしとします。

環境経営計画は、年度末に翌年の実行計画管理表を作成し、その施策に基づき活動した結果を四半期ごとに環境委員会にて報告する従来と同じ方法で問題なしと判断します。

環境マニュアルは 2018 年の 10 月に 2017 年度版ガイドラインへの移行のための改正をしたが、問題点や改善点などが有れば、「都度改正する」ルールを継続します。

二酸化炭素排出量削減の大きな要素である電力使用量の削減は、各設備の大きな消費電力のモータに「インバータを付ける」、「社内の照明器具を蛍光灯・水銀灯から LED へと変更する」等の方法で改善を図ってきましたが、ほぼ達成できたと思われま。さらなる二酸化炭素排出量を目指すため、購入電力のグリーン化を検討します。

二酸化炭素排出量削減のもう一つの要素の灯油使用量の削減は、新塗装ラインの燃料を灯油から LPG へ変更したのに伴い、ボイラーの燃料も灯油から LPG へ変更したため、大きく達成することができました。さらにボイラーのドレンを回収し再利用することで省エネを図り、二酸化炭素排出量の大幅な削減へ繋げて行きます。

廃棄物排出量・水使用量及び総物質投入量の削減については、活動開始以降大幅に削減できているので、現在掲げている施策を継続することが最善であると判断しています。

PRTR 法該当の化学物質使用量の削減については、2019 年より 2 基ある塗装ラインの内 1 基を更新し、溶材塗装から粉体塗装へ転換したことから、使用量を大幅に削減することができました。さらに化学物質を無駄に使用する原因となっている塗装不良についても、要因を早急に究明し改善につなげたいと考えます。

最後に、来年(2021 年)より各環境負荷削減率の基準年が従来の 2013 年から 2019 年へと変更になります。このため、各項目の削減率がより大きなものとなりますが、一方では環境への取組を開始してから 7 年が経過したこともあり、従来の施策を継続しただけでは目標を達成するのが困難になってきている面もあります。このような状況で環境への取り組みを推進するために、今後は大きな設備投資による抜本的な改善等も検討していきます。